

## 平成26年（2014年）12月期決算概要

会社名 : クラレトレーディング株式会社  
 代表者 : (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 村井 研三  
 問合せ先責任者 : (役職名) 人事・総務部長 (氏名) 宮西 賢治  
 : (TEL) (06) 7635-1636

## (1) 当期の連結経営成績に関する定性的情報

当連結会計年度（平成26年4月1日～平成26年12月31日）の当社経営環境は、国内市場の一部分野で4月の消費増税による反動減が見られましたが、当社業績への大きな影響はありませんでした。また、注力しているアジア市場は、総じて景気の拡大テンポが穏やかになってはいるものの、中国をはじめ底堅い経済成長が継続しました。特に、米国経済が堅調に回復していることを受け、アジアからの輸出の持ち直しも当社業績に貢献しました。その結果、当社を取り巻く経済環境は穏やかな回復基調となりました。

こうした中、平成24年度からの3ヵ年の中期経営計画『GS-III』の主要戦略の一つである「海外事業の拡大のための基盤整備」の一環として、ベトナム現地法人の体制強化や、同国での加工拠点（織・編・仕上・縫製）の新設・拡充等を進めると共に、拡大を目指す上海現地法人の更なる体制整備を進めました。

また、円安の進行に伴う諸コスト上昇に対し、コスト削減や価格改定を進めました。

当連結会計年度の経営成績は、売上高は911億2千7百万円（前期同一期間比102億7千5百万円、12.7%の増収）、営業利益は27億9千1百万円（同2億9千6百万円、11.9%の増益）、経常利益は28億7千7百万円（同3億1千9百万円、12.5%の増益）、当期純利益は18億7千6百万円（同2億7千7百万円、17.3%の増益）となりました。

## 【連結業績】

(単位：百万円未満切捨)

	当期 (平成26年4月～平成26年12月)		前期同一期間 (平成25年4月～平成25年12月)		増減	
	金額	利益率	金額	利益率	増減額	増減率
売上高	91,127	-	80,852	-	+10,275	+12.7%
粗利益	6,989	7.7%	6,322	7.8%	+667	+10.6%
営業利益	2,791	3.1%	2,495	3.1%	+296	+11.9%
経常利益	2,877	3.2%	2,557	3.2%	+319	+12.5%
当期純利益	1,876	2.1%	1,599	2.0%	+277	+17.3%

(注1) 当社は、平成26年6月20日に開催された親会社である株式会社クラレの定時株主総会における「定款一部変更の件」の決議を受けまして、決算日を3月31日から12月31日に変更いたしました。従いまして、日本の当期連結会計年度は、表記の通り平成26年4月1日～同12月31日となります。

(注2) 当社の連結子会社は、可樂麗貿易（上海）有限公司の1社であり、同社の連結累計期間は平成26年1月1日から同12月31日となっています。

## 【単体業績】

(単位：百万円未満切捨)

	当期 (平成26年4月～平成26年12月)		前期同一期間 (平成25年4月～平成25年12月)		増減	
	金額	利益率	金額	利益率	増減額	増減率
売上高	88,989	-	79,102	-	+9,887	+12.5%
粗利益	6,585	7.4%	5,977	7.6%	+608	+10.2%
営業利益	2,617	2.9%	2,341	3.0%	+275	+11.8%
経常利益	2,681	3.0%	2,386	3.0%	+295	+12.4%
当期純利益	1,730	1.9%	1,471	1.9%	+259	+17.6%

以下&lt; &gt;の中の名称は(株)クラレの商標です。

## (2) 営業の概況

## 【繊維関連】(増収、増益)

売上高は322億円。前期同一期間比13億円(4%)の増収。

## (衣料分野)

- スポーツ分野は、スポーツアパレル向け高機能素材の販売が拡大しました。また、学校体育衣料向け販売も堅調に推移し、増収となりました。
- ユニフォーム分野は、白衣用途のマーケットが好調に推移した上に、機能素材の採用が進展しました。ワーキング用途は在庫調整が一段落し、前年並みに回復しました。
- ブラックフォーマル分野は、濃染加工や遮熱など新規開発の機能素材の採用が進展しましたが、アパレルでの在庫調整の影響が継続しました。
- 機能原糸は、<ミントパール>の販売がタオル用途で拡大しており、また<クラカーゴ>も新規採用が進展し、増収となりました。
- 上海現地法人では、現地日系企業向け縫製品ビジネスが、テキスタイルとの運動による一貫体制の評価も加わり、販売が拡大しました。

以上の結果、衣料分野は増収、増益となりました。

## (資材分野)

- スポーツ靴用資材、メディカル関連資材は、好調な需要に加え顧客との素材開発の取組みが貢献し、売上高は順調に拡大しました。現在、ベトナム現地法人との協働により、現地日系企業向けに素材の現地調達・現地加工を可能にする一貫供給体制の構築を急ピッチで進めており、スポーツ用靴資材での現地加工品販売に取り組んでいます。
- 産業資材は、自動車用ゴム資材、高強力繊維<ベクトラン>、FRC(繊維補強セメント)用ビニロンが拡大した他、水溶性PVA繊維<クラロンK-II>も堅調に推移し、増収となりました。
- 人工皮革<クラリーノ>は、主力のランドセル用途の販売が、顧客での在庫調整が一段落したことから回復し、増収となりました。
- 不織布関連は、国内競合が厳しい中フェイスマスクなど化粧品用途への販売が拡大し、増収となりました。

以上の結果、資材分野は、増収、増益となりました。

### 【樹脂・化学品・化成品関連】（増収、増益）

売上高は589億円。前期同一期間比90億円(18%)の増収。

- 溶剤等化学品関連は、国内、輸出とも順調に拡大し、特に中国では新規顧客獲得により大きく増収となりました。
- 環境関連資材含むその他の分野は、膜製品や活性炭の販売が拡大しました。

### （3）平成 27 年 12 月期の連結業績予想（平成 27 年 1 月 1 日～平成 27 年 12 月 31 日）

当社の経営環境は穏やかな回復基調にあります。日本の個人消費は引き続き低いマインドが継続する見通しです。また海外経済では、米国で回復基調の継続が見込まれるものの、拡大期待の大きい新興国の経済情勢はまだら模様となっています。これに加え、円安定着による輸入資材の価格や加工賃の上昇、急落した原油価格の今後の動向、一部国・地域での政情不安や地政学的リスク等、当社業績を左右する不安要素は多く、先が見通し難い状況にあります。

このような経営環境ですが、前中期経営計画『GS-Ⅲ』の基本戦略を踏襲した新たな中期経営計画『GS-STEP』の下、中国や ASEAN 地域の底堅い成長を積極的に取り込むための施策を継続し、次期連結会計年度の業績は平成 26 年同一累計期間を若干上回ると予想しています。

(億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
通 期	1,200	40	40	25

<参考>

平成 26 年 同一累計期間	1,192	38	40	25
-------------------	-------	----	----	----

<注記>上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいており、実際の業績は今後様々な要因によって大きく異なることがあります。

以 上